



# メディカルネットワーク

発行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久 2-1-10  
 電話 03-3810-1111 FAX03-3894-0282 <http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html>

2015

No. 21

December

## 院長挨拶



病院長

上野 恵子

この4月に2期目の病院長を拝命いたしました上野恵子と申します。

この半年間、医療安全対策担当の中野清治（心臓血管外科）、診療支援連携部門担当の佐倉 宏（内科）、診療部門担当の成高義彦（外科）、臨床研修・管理部門担当の糟谷英俊（脳神経外科）、看護部門担当の松村幸美（看護部）の5名の副院長と共に、病院運営を行ってまいりました。

2年半前の病院長就任時を振り返ると、当時の病院には、様々な問題が山積しておりました。特に立地条件、建物の老朽化に起因する安全性への懸念は、東日本大震災の発生により、より現実的な問題になっておりました。また、IT化の遅れによる紙ベースでの情報伝達が、医療安全のみならず若手の人材確保や育成にも悪影響を及ぼしておりました。就任を機にこれらの問題を解決すべく、出来る事から前向きに取り組むことを宣言いたしました。達成すべき目標を三段跳びに例え、「ホップは耐震診断とDPC（包括医療費支払い制度）病院」、「ステップは電子カルテ導入」、「ジャンプは新病院建設」と設定し、達成を目指して参りました。

おかげさまで1966年築の一号館の耐震工事はこの11月に無事終了しました。工事期間中は外来ならびに入院の患者さんに大変なご迷惑をおかけいたしました。この場を借りてご協力に御礼申し上げます。

また、電子カルテも6月1日より稼働することができました。導入当初は外来予約数の制限、診察時間が通常より長くなり、大変お待たせする結果となってしまいご迷惑をおかけしてしまいましたが、現在は大きなトラブルもなく、順調に稼働しております。

当院は東京都災害拠点中核病院、救急救命センター、産産期母子医療センターにおいても拠点病院として、

様々なニーズへの対応が求められています。しかし、現有地の環境下では医療圏の中核病院として安全な医療を提供するのは難しいと長年に渡り思案している中、足立区から誘致のお話をいただき、4月28日に東京女子医科大学と足立区との間で、「移転に関する覚書」を交わしました。

上記以外にも、改善をご報告させて頂きたいこととして、「地域がん診療病院」の件がございます。現在、私共の病院のある東京都東北部医療圏（荒川・足立・葛飾区）におけるがん患者の他地域への流出率は50%以上です。このゆゆしき状況を打破すべく、当院は4月から地域がん診療連携拠点病院である東京都立駒込病院のグループ指定を受けて「地域がん診療病院」になりました。今まで行ってきた集学的治療の他に、緩和ケア、相談支援及び地域連携等の基本的がん臨床のさらなる均てん化に向けて、ますます積極的に取り組んでまいります。

さらに、平成28年度には、「医療の標準化」と「質の向上」を目指し、現在のDPCの準備病院からDPC病院になる予定です。また、「地域医療支援病院」の承認を目指して外来患者さんには「かかりつけ医」からの紹介状を持参して頂いております。おかげさまで紹介率65%・逆紹介率40%の目標値を遙かに超えており、今後も地域の先生方との密接な連携を通して大学病院の役割である安全で高度な医療を提供してまいりたいと考えております。

そして東医療センターのサテライトである「日暮里クリニック」は、11月から4階のみになり、内装を一新して新たなスタートを切りました。今後もより親しみやすいクリニックを目指してまいります。

今後はこれまで以上に地域の医療機関と連携・協力しながら医療の質とサービスの向上に努め、みなさまに信頼される病院として地域医療に貢献してまいります。皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 第25回城東地区医療連携フォーラム開催される



新生児科

臨床教授 長谷川久弥

第25回城東地区医療フォーラムが、平成27年2月7日に浅草ビューホテルで開催されました。「喫煙の驚異－胎児から高齢者まで－」というテーマで開催され、最近特に関心が高いテーマであったため、多くの方にご参加いただき、おかげさまで盛会裏に終えることができました。

フォーラムの前半では、当センター外科部長の成高義彦先生に座長をしていただき、武田内科小児科クリニック院長の武田英紀先生に「喫煙と感染症－市中感染から院内・術後感染のリスク－」というタイトルで特別講演をしていただきました。

後半は、Medical Educational Session：パネルディスカッションとして、北区医師会 鶴井光治先生、当センター副院長 山口佳壽博先生のお二人に座長を務めていただき、パネリストとして、北区医師会 堀江秀治先生に「北区医師会における喫煙の現状と禁煙治療の取り組み」、当センター内科 林光俊先生に「喫煙とびまん性肺疾患」、当センター呼吸器外科 前昌宏先生に「喫煙と悪性腫瘍」、当センター麻酔科 市川順子先生に「喫煙と麻酔」、そして私が「喫煙と胎児／新生児／小児」というテーマで講演を行い、最後に総合討論が行われました。総合討論では、公共空間における喫煙の是非、条例などによる喫煙場所の制限等、さまざまな問題に対してフロアからも多くの質問、活発な議論が行われ、有意義な論議がなされました。

喫煙は大きな社会の関心事となっており、禁煙外来

のテレビコマーシャルは毎日のように流れています。喫煙の身体に及ぼす影響は、広く認知されており、タバコのパッケージにも健康に害を及ぼす旨の文言が印刷されています。喫煙者に対する啓蒙が進む一方で、受動喫煙に対する認識はまだ十分とはいえません。妊婦の喫煙による流産のリスクの増加、胎児発育への悪影響など、生まれる前から喫煙の影響を受けます。家庭内における受動喫煙では、乳幼児突然死の増加、気管支喘息の増加、中耳炎などの感染症の増加など、防ぐことのできない子供たちが多くの影響を受けています。公共空間における喫煙も、レストランなどの分煙では、受動喫煙を十分に防ぐことは困難とされています。開放的な空間の駅や空港でも、風下では10m以上離れた場所でも受動喫煙のリスクがあるとされています。気管支喘息などの基礎疾患のある場合には、わずかな受動喫煙でも肺機能に影響を及ぼす可能性があることが指摘されています。喫煙は個人の嗜好であり、喫煙を法的に規制することには限界があります。喫煙者も非喫煙者も快適に暮らせるような、環境、社会の体制作りが重要と思われます。

これまでは、小児は小児、成人は成人というように、それぞれ違った疾患の概念でとらえられることが多くみられました。最近では疾患は、新生児から成人まで繋がっているという概念が主流になりつつあります。小さく生まれた子供たちが、将来の成人病のハイリスク群であったり、新生児慢性肺疾患の子供たちが、将来的なCOPDの予備軍になるのではないかなど、科を越えた縦断的な連携が必要になってくるものと思われます。東京女子医科大学東医療センターは、新生児～成人まで各分野の専門家が揃い、城東地区では包括的な

医療の行える数少ない病院の1つだと思います。今後も地域の先生方との連携のもと、こうした特色を生かした医療を進めていければと考えています。

最後にこの場をお借りいたしまして、今回のフォーラムの準備、運営に参画していただきましたすべての関係の方々に厚く御礼申し上げます。



## 第26回城東地区医療連携フォーラム開催される



精神科

教授 山田 和男

第26回城東地区医療連携フォーラムは「在宅医療と地域連携」をテーマに、平成27年7月11日に浅草ビュー

ホテルで開催されました。わが国では現在、4人に1人が65歳以上の高齢者という高齢社会を迎えています。城東地区は特に高齢化率が高いことが知られています。高齢社会においては、通常の外来・入院治療に加えて、在宅医療の必要性が高まることから、医療関係者の関心も高く、職種を超えて多くの方々にご参集いただき、お陰様で盛会に終わることができました。

フォーラムの前半は、下谷医師会理事の比屋根学先生に座長をしていただき、私が「認知症とせん妄－認知症患者が入院したさいの問題点と対策－」というテーマでお話しさせていただきました。高齢社会では認知症の問題は避けて通れないテーマですが、2012年現在、わが国の認知症推定患者数は462万人であり、65歳以上の全国民（3,079万人）の約15%が認知症であると推定されています。また、認知症の有病率は、高齢になるほど上昇することが知られており、85歳以上では40%を超えるとされています。今後、さらなる高齢化の進行とともに認知症の患者数は増加すると考えられており、2025年には700万人を超える（65歳以上の高齢者の約20%）と予測されています。フォーラムでは、通常の高齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違い、認知症の中核症状と行動・心理症状、診断基準、下位分類（アルツハイマー病による認知症、レビー小体病を伴う認知症など）、治療などについて概説させていただきました。また、認知症と鑑別すべき疾患としてせん妄を紹介させていただきました。

せん妄は、認知の変化を伴う意識の障害であり、比較的短期間のうちに出現することを特徴とします。一般外科病棟では10～15%、一般内科病棟では15～25%、集中治療室（ICU）では、実に30～50%の患者が経験する障害です。「高齢」、「認知症」、「薬剤」は、せん妄出現の3大リスク因子とされています。特に薬剤に関しては注意すべきであり、処方方はシンプルに、不必要な薬剤は常に整理することを心がけるべきでしょう。フォーラムでは、せん妄の症状、診断基準、認知症との鑑別、原因となりうる薬剤、対応、薬物療法などについて概説させていただきました。

後半は、下谷医師会理事の加藤元浩先生と東医療センター副院長の中野清治先生に座長をしていただき、日頃より在宅医療と地域連携に携わっておられる3名の先生方にパネリス



トとしてご登壇いただきました。加藤元浩先生（下谷医師会理事）には、「在宅医療の現状と病診連携～台東区の場合を中心に～」と題して、地域包括ケアシステムや在宅療養支援診療所について説明していただくとともに、在宅医療のメリットやバリアー、台東区における連携システムの現状などについて紹介していただきました。生沼幸子先生（東医療センター在宅医療部）には、「急性期病院の在宅医療部の役割」と題して、在宅医療の歴史、大学病院・急性期病院における在宅医療部の役割、高齢者の心不全治療の問題点などについて紹介していただきました。塩澤俊一先生（東医療センター外科）には、「急性期病院としての在宅医療への支援」と題して、終末期の療養場所に関する世論調査の結果、（超）高齢・多死社会における医療の問題点、病床機能の再編、退院支援・調整、在宅から急性期病院に望むことなどについて紹介していただきました。パネリストの先生方からは、それぞれのお立場で在宅医療と地域連携についてのお考えを述べていただき、最後に会場の皆様とともに総合討論を行いました。大勢の方々にご発言いただき、たいへん有意義な討論が行われたと思います。

最後に、この場をお借りいたしまして、今回のフォーラムの準備・運営にご参画いただいた関係の方々に、厚く御礼申し上げます。



## 日暮里クリニック新体制について



### 日暮里クリニック

所長 齋藤 壽仁

当クリニックは開院して8年がたちました。この間、初診数は46,364人、のべ受診者数は386,255人となり、先生方から多くの患者さんを紹介して頂いたことを御礼申し上げます。この度私どもではクリニックの再編成を行い、13部門（内科、外科、乳腺科、性差医療部、心臓血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、骨盤底機能再建診療部、整形外科、スポーツ健康医学、形成外科、脳神経外科、麻酔科ペインクリニック）が4階で診療を行っています。特色として、性差医療部では甲状腺、内分泌代謝、女性高血圧、微小血管狭心症などの疾患を対象に女性専門外来を設置しております。また、心臓血管外科では特殊外来として心臓弁膜症・血管外来を開設しております。この他にも高血圧、糖尿病、喘息・COPD、頭痛・顔面けいれん・三叉神経痛、しびれ・痛みなどの診療に専門の医師が

対応しております。また、骨盤底機能再建医療部では患者さんの悩みに対し個別・専門化された医療を提供いたします。当院はこのようにコンパクトながら、疾患ごとにきめ細かい医療を目指しておりますので、ご希望の患者さんがおられましたらご紹介いただければ幸いです。これまで5階で行っていた美容医療は、4階に移転し、形成外科・美容外科と統合して再スタートし、最新のレーザー・光治療機器を導入し、自費診療によるケミカルピーリング、ボトックス・ヒアルロン酸注入などを含めさらに充実したサービスを提供しております。また、細胞治療部門では癌の免疫療法として活性化自己リンパ球移入をこれまで700人の患者さんに施行しており、今後も自費診療として続行いたします。5階の眼科診療は東医療センター眼科へ移管いたしました。

当クリニックは今後も東医療センターと連携して、地域医療の充実に微力ながら貢献していきたいと存じます。先生方からのこれまでのご支援に重ねて感謝すると共に、今後も何卒よろしく願い申し上げます。

## 日暮里クリニック女性専門外来紹介(2)



### 性差医療部

助教 佐藤真理子

私はH25年6月より東医療センター日暮里クリニックにて「女性専門外来」を担当しております。女性専門外来では、性差医療（Gender Medicine：疾患の背景にある男女差（性差）を考慮し診断や治療にあたるという概念）に基づいた診療を行っております。私はその中でも、更年期の諸症状・更年期女性の高血圧症をみる「更年期女性の高血圧外来」を中心として女性の総合内科的な鑑別診断・治療をしております。

ご存知のように更年期女性の高血圧症は血圧の変動が大きく、降圧剤を通常量で処方すると降圧しすぎて患者が服薬をやめてしまうことはしばしば見受けられます。この年代は、更年期症状という肉体的ストレスの他に、家庭内問題（子供の教育・親の介護・夫婦関

係など）・社会的問題（仕事の昇進に伴う重圧・職場の人間関係・地域の人間関係・子供に関する人間関係など）などを抱えており精神的ストレスも多く、血圧の変動を来しやすい傾向があります。これらのストレスを緩和することで少量の降圧剤で血圧コントロールが可能となる場合もあります。更年期女性は浮腫による水分貯留の傾向・肥満なども合併する事が多く、塩分制限・体重コントロールなど生活習慣の改善が有効な場合もあります。

当外来では、ホットフラッシュ・動悸・易疲労感・不眠・浮腫・その他の愁訴に対する鑑別診断をしながら更年期症状の診断をし、症状緩和を図りつつ高血圧症の治療をしております。もしもこのような症状を訴える高血圧症の女性患者がいらしたら是非ご紹介ください。診断と治療方針を決定し、ご希望に応じて地域の病院やクリニックへお戻しいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

## 事務長挨拶



事務部

事務長 小林 秀夫

このたび、東医療センターの事務長を拝命いたしました小林と申します。

当院は1934年に開設し、今年で81年目を迎えました。2005年には、病院名を「第二病院」から「東医療センター」へと改称し現在に至っております。

当院は81年間に亘り、東京都区東北部保健医療圏の地域医療と先進医療の両側面を担ってまいりました。さらに地域医療貢献のために地域医療支援病院の承認を目指して取り組んでいます。現在では、病床数495床、1日外来患者数約1300人・1日入院患者数約410人（平成26年度実績）の患者さんを受け入れています。

当院の特長としては、24時間体制の三次救急医療を提供する救命救急センターの設置と大規模災害発生時に医療チームを派遣する「東京DMAT隊」の活動があります。そのほかに周産期医療センターの設置や地域がん診療病院として、がん診療に取り組んでいます。また、電子カルテを今年6月に導入し、患者情報の一元化と情報共有を図っています。

現在、当院においては耐震化や施設老朽化の問題から病院の将来構想に向けて検討を進めているところであります。

大学病院の附属医療機関として東京都区東北部保健医療圏における高度急性期医療の提供と地域医療への貢献を目指して参りますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。


 看護部だより6

## 『緩和ケアチーム奮闘中!』

緩和ケアチーム専従看護師

三橋 友絵

緩和ケアチーム専従看護師の三橋友絵です。当院の緩和ケアチームは、平成24年4月より活動を開始し、今年で4年目を迎えます。

私達の活動の目的は、がん患者さんが最期の時を迎えるその日まで、その方らしい人生を送ることが出来るようにお手伝いをすることです。具体的には、痛みや吐き気などのがんに伴うつらい症状がある時には、そのつらい症状が「日常生活にどのような悪影響を与えているのか?」「その原因は何か?」を患者さん・主治医の先生とじっくり話し合い症状を緩和するための治療・ケアを行っていきます。

患者さんの痛みが緩和され、笑顔で「痛みが楽になったよ」とお話しして頂いたときには、ホッと一安心すると共に嬉しい気持ちでいっぱいになります。患者さんを支えるはずの私達が、患者さんの笑顔と「ありがとう」の言葉に励まされ支えられているということを実感します。

緩和ケアチームのメンバーの職種は、医師・看護師・

薬剤師・医療ソーシャルワーカー管理栄養士・臨床心理士など様々な職種が患者さんをサポートします。「なぜ、こんなに沢山の職業の人が?」と疑問に思われる方もいらっしゃるかと思いますが、私達の役割ははじめに書かせていただいた通り「その方らしい人生を送ることが出来るようにお手伝いをすること」です。そのためには、つらい症状の緩和だけではなく患者さんが安心して療養生活を送ることが出来るようにそれぞれの職種が専門知識を活かしてサポートに当たる必要があるのです。「難しいことは1人で考えるんじゃないよ。3人寄れば文殊の知恵だよ。」これは私が新人看護師だった時に患者さんに教えて頂いた言葉です。緩和ケアチームの活動はまさに「文殊の知恵」、今日も患者さんの「生きる」を支えるために奮闘中です!



## 今年度入局して



小児科

馬淵 沙希子

平成25年より当院で初期臨床研修を行い、今年度より小児科に入局させて頂きました。毎日可愛い子供たちと接することができ、大変楽しい研修を送っています。また、他科を含め、多くの先生方から「頑張ってる？」とお声掛けを頂き、非常にありがたく感じております。まだまだ未熟ではありますが、子供たちと地域の皆様、東医療センターの医療に少しでも貢献できるよう精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。



産婦人科

立花 康成

平成25年より二年間当院で初期臨床研修を修了し、今年度より当院産婦人科に入局させて頂きました。

産婦人科は命の始まりから終わりまで診れる唯一の科であり、当院は両方同時に携わることができ充実した毎日です。

当科の医局員は少なく日々忙しく不安もありますが、その分やりがいも大きく感じております。

患者さんに誠実に向き合える医師を目指し日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

## 紹介状ご持参のお願い並びに時間外選定療養費について

## 医事課

当院では、円滑な診療や待ち時間の短縮など、患者さん負担を軽減し、地域の病院として高度急性期医療を担っていくため、地域の医療機関との役割分担を明確にし、地域全体で患者さんの健康をサポートしたいと考えております。

当院へ患者さんをご紹介いただく際、地域連携室にて予約していただき、紹介状を持参のうえ、受診して頂くようご協力お願いいたします。紹介状をお持ちでない場合、選定療養費として5,400円ご負担いただいております。

また、二次救急医療機関として、緊急性が高い重症な患者さんを最優先に対応するため、「時間外選定療養費7,560円」をご負担いただく場合があります。

地域の救急医療を維持していくためのやむを得ない措置ですので、ご理解ご協力のほどお願いいたします。

## 電子カルテ導入に伴い、6月1日より受付方法が変わりました。

## ★当院に初めて受診する方

当院初めての患者さんは、紹介状の有無にかかわらず、「**初診受付**」にて受付をいたします。電話等で予約をされている方、紹介状をご持参の方は窓口はその旨をお伝えください。

## ★再診の方

再診の患者さんは、必ず外来棟1階「**自動再来機**」に診察券を入れていただき、受付を行ってください。受付が完了すると「外来基本伝票」が出力されますので、伝票ケースに入れ各診療科・検査室の受付に提出してください。

「外来基本伝票」を窓口へ提出していただかないと、来院確認が出来ずお名前をお呼び出来ませんので、ご注意ください。

尚、3ヶ月以上保険証を確認していない方は、自動再来機での受付ができません。

「初診受付」にて保険証を確認いたしますので、お声かけください。

## ★歯科口腔外科を受診される方

歯科口腔外科の受付については、歯科口腔外科に設置してある「**歯科専用の自動再来機**」での受付となります。(受付開始時間は、朝8:40～)

初診・再診に係らず、予約なしで来院されますと、紹介状をお持ちいただいた場合でも、当日の診察により長時間お待ちいただくことがあります。

診察の事前予約を承っておりますので、来院の際には、ご予約をしていただくようお願いいたします。



## 地域連携室よりお知らせ



### 初診患者診療予約のご案内

#### (1) 地域の先生より『地域連携室』で電話予約ができます

<予約から受診までの流れ>

- ①医療機関より電話で予約取得していただきます  
※一部診療科を除く
- ②医療機関より「FAX診療申込書」を送っていただきます  
(裏面参照)
- ③地域連携室より「予約票」をお送りいたします  
※患者さんにお渡しください  
※一部診療科を除く
- ④当日患者さんは、外来棟1階「初診受付」へお越しください  
※予約票、保険証(医療証)、紹介状(検査データ等CD-ROM)等  
をお出しください  
※診察申込書の記載は不要です  
※ご不明な点は地域連携室へお問い合わせください

地域連携室予約専用 電話・FAX番号

電話 03-3810-1112(自動音声)内線3121  
03-3810-1111(オペレーター)地域連携室  
FAX 03-3893-0772(直通)

予約受付時間

平日(月～金) 9時～16時まで  
土曜日(第3除く) 9時～11時まで  
(祝日・年末年始12/30～1/4・  
創立記念日12/5 除く)

#### (2) 紹介状をお持ちの患者さんは『受診される診療科』で電話予約が出来ます

<予約から受診までの流れ>

- ①患者さんより電話で予約取得していただきます  
※当院の診察券をお持ちの場合はお手元にご用意ください  
※一部診療科を除く
- ②代表電話へかけていただき「受診される診療科」をお申し付け  
ください
- ③当日患者さんは、外来棟1階「初診受付」へお越しください  
※予め電話で予約をしている旨をお申し出ください  
※診察申込書(病院のホームページからダウンロード可能)、  
保険証(医療証)、紹介状(検査データ等CD-ROM)等  
をお出しください

東医療センター代表電話番号

電話 03-3810-1111(オペレーター)診療科

予約受付時間

平日(月～金) 14時～16時まで  
(祝日・年末年始12/30～1/4・  
創立記念日12/5 除く)

#### 第27回 城東地区医療連携フォーラム開催のお知らせ

日時：平成28年2月13日(土) 午後3時より

場所：浅草ビューホテル

テーマ：「地域包括ケア」(予定)

◆◆ 皆様のご参加をお待ちしております ◆◆



#### 『連携担当医』制度のお知らせ

平成26年3月より開始いたしました。

『連携担当医』制度とは、病診連携の強化を目的とし、医療機関の先生からのお電話を直接診療科の医師へお繋ぎするシステムとなっております。これによりスムーズなご対応ができるようになりました。

連絡方法：代表電話 03-3810-1111 オペレーターに「〇〇科の『連携担当医』へ」とお伝え下さい。

対応時間：平日(月～金) 9時～16時30分 土曜日9時～12時

(第3土曜日、祝日、年末年始12/30～1/4、創立記念日12/5は従来通り当直対応)

対応診療科：内科、小児科、精神科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、脳神経外科  
心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科

# FAX診療申込書

\*保険情報をご記入いただくか、保険証をFAXしてください。

\*\*老人医療は負担割合をご記入下さい。

記載日：平成 年 月 日

保険者番号	本人 高期高齢者医療 被保険者証番号	1割 公費負担者番号
記号	番号	2割 公費受給者番号
受診科 (一部診療科を除く予約制)	先生	紹介医療機関名
科		所在地
予約日時		電話番号 ( )
月 日 ( ) 時 分		FAX番号 ( )
		医師氏名 印
フリガナ 患者氏名	性別 男・女	生年月日 明・大 年 月 日 昭・平 ( 歳)
住所 〒 -		電話 (自宅) ( ) (携帯) ( )

\*太線内は全てご記入をお願いいたします

## ■■「FAX診療申込書」利用のご案内■■

- 「FAX診療申込書」は、予約取得後お送りください。

### ＜予約方法＞

医療機関より「地域連携室」へ☎電話で予約

### ＜予約受付時間＞

平日 (月～金) 9時～16時

土曜日 (第3除く) 9時～11時

祝日・年末年始 (12/30～1/4)・創立記念日 (12/5) を除く、予約の前診療日・受付時間内までにお願いたします。

予約電話番号

03-3810-1111 → オペレーター → 地域連携室

03-3810-1112 → 自動音声 → 内線3121

FAX番号

FAX送信先

(オナヤミ ナニ)

地域連携室

**03-3893-0772**

(番号間違いの無いようお願いいたします)

### ＜予約票＞

予約票をFAXでお送りします (一部診療科を除く)。患者さんへお渡してください。

### ＜受診日＞

初診受付までお越してください。

- 救急患者の紹介は、救急当番・連携担当医まで連絡をお願いいたします。  
救急で受診する場合は「FAX診療申込書」は使用せず、初診受付までお越してください。  
→(代)03-3810-1111 オペレーターに受診科をお伝え下さい。

- 予約取得後の変更またはキャンセルについては、地域連携室 (内線3121) までご連絡をお願いします。

## ■■受診のご案内■■

- 紹介状があれば、患者さんから「受診される診療科」で予約取得できます。

### ＜予約方法＞

患者さんより「受診される診療科」へ☎電話で予約

予約電話番号

03-3810-1111 → オペレーター → 受診される診療科

### ＜予約受付時間＞

平日 (月～金) 14時～16時

祝日・年末年始 (12/30～1/4)・創立記念日 (12/5) を除く、予約受付時間内にお願いたします。

- 紹介状をお持ちの場合、予約をしていない場合でも11時までにご来院いただければ受診できます。但し、診療状況により長時間お待ちいただくことや、別の日に予約をお取りいただく場合がありますので予めご了承ください。

### ＜受診日＞

初診受付までお越してください。



東京女子医科大学東医療センター  
Tokyo Women's Medical University Medical Center East

地域連携室

〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10

TEL 03-3810-1111(代表) 内線6151

FAX 03-3893-0772(地域連携室)